

どこがちがう？ 慣用句の直し⑤

なまえ _____

場めんに 合わない 慣用句を 直そう～いろいろな 場めん～

ひづけ _____

- ・下線は 引いて ない。場めんに 合わない 慣用句の ところを 見つけて、自分で 下線を 引こう。
- ・場めんに 合う 慣用句を 自分で 思い出して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・箱は ないよ。場めんに 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん ゆかに 落とした 小さな ビーズを、ひとつも 見のがさない ように、ゆかを じっと 見て さがした。

ぼくは 目を三角にして さがした。

→ _____

- (2) 場めん ずっと わからなかった 算数の 問題が、先生の ひとことで 急に 分かった。

ぼくは ^{かた}肩を落とした。

→ _____

- (3) 場めん ぜんぜん 練習しないで 本番を むかえた。

練習しないで 本番に のぞめば、失敗する ことは 火を見るより明らかだ。

→ _____

- (4) 場めん お店の ショーケースに ならんだ 新しい ゲームが、ほしくて たまらない。

ぼくは 二の足を踏む ^ふほど ほしかった。

→ _____

- (5) 場めん 夜の 暗い 道で、後ろから 急に 大きな 音が して、ぞっと した。

わたしは 胸が熱くなった。

→ _____

- (6) 場めん どちらに するか まよって いたが、さいごは 思いきって やって みる ことに 決めた。

ぼくは ^{こし}^ぬ腰を抜かした。

→ _____

- (7) 場めん 二人の 兄弟は 顔も 声も そっくりで、見分けが つかない。

あの 兄弟は 水と油だ。

→ _____

- (8) 場めん ぼくは 強い 先ばいに 練習の 相手を たのんだ。

ぼくは 強い 先ばいの 胸を借りて 練習した。

→ _____

- (9) 場めん ひと月の お手つだいの お礼は、これだけかと 思う ほど わずかだった。

もらった お金は ^{ねこ}猫の額だった。

→ _____

- (10) 場めん 朝から なんとなく いやな 予感が して いたら、夕方 おじいちゃんが 入院したと 電話が あった。

あの 朝の 予感 ^こは 取り越し苦労だった。

→ _____



どこがちがう？ 慣用句の直し⑤【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～いろいろな 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- (1) 場めん ゆかに 落とした 小さな ビーズを、ひとつも 見のがさない ように、ゆかを じっと 見て さがした。
ぼくは 目を三角にして さがした。
→ ぼくは 目を皿にして さがした。
○ 目を皿にする=目を 大きく 開いて 熱心に 見る
× 目を三角にする=おこって こわい 目になる
- (2) 場めん ずっと わからなかった 算数の 問題が、先生の ひとことで 急に 分かった。
ぼくは 肩を落とした。
→ ぼくは 目からうろこが落ちた。
○ 目からうろこが落ちる=きゅうに よく わかるようになる
× 肩を落とす=がっかりして 元気を なくす
- (3) 場めん ぜんぜん 練習しないで 本番を おかえた。
練習しないで 本番に のぞめば、失敗する ことは 火を見るより明らかだ。
→ 直さなくて よい
○ 火を見るより明らか=うたがう よちが ないほど はっきりして いる
場めん に 合っている ので 直さない。
- (4) 場めん お店の ショーケースに ならんだ 新しい ゲームが、ほしくて たまらない。
ぼくは 二の足を踏む ほど ほしかった。
→ ぼくは のどから手が出る ほど ほしかった。
○ のどから手が出る=ほしくて たまらない
× 二の足を踏む=ためらって 決められない
- (5) 場めん 夜の 暗い 道で、後ろから 急に 大きな 音が して、ぞっと した。
わたしは 胸が熱くなった。
→ わたしは 鳥肌が立った。
○ 鳥肌が立つ=ぞっと して はだが ぶつぶつになる
× 胸が熱くなる=感どうして 胸が いっぱいになる
- (6) 場めん どちらに するか まよって いたが、さいごは 思いきって やって みる ことに 決めた。
ぼくは 腰を抜かした。
→ ぼくは 腹を決めた。
○ 腹を決める=まよいを やめて 決心する(ほかに: 腹をくくる)
× 腰を抜かす=おどろいて 立てなく なる
- (7) 場めん 二人の 兄弟は 顔も 声も そっくりで、見分けが つかない。
あの 兄弟は 水と油だ。
→ あの 兄弟は うり二つだ。
○ うり二つ=そっくり よく 似て いる
× 水と油=性格が 合わず 仲が 悪い
- (8) 場めん ぼくは 強い 先輩に 練習の 相手を たのんだ。
ぼくは 強い 先輩の 胸を借りて 練習した。
→ 直さなくて よい
○ 胸を借りる=強い 相手に 練習の 相手を してもらう
場めん に 合っている ので 直さない。
- (9) 場めん ひと月の お手つだいのお礼は、これだけかと思う ほど わずかだった。
もらった お金は 猫の額だった。
→ もらった お金は スズメの涙だった。
○ スズメの涙=ほんの わずかな 量
× 猫の額=場所が とても せまい
- (10) 場めん 朝から なんとなく いやな 予感が して いたら、夕方 おじいちゃんが 入院したと 電話が あった。
あの 朝の 予感は 取り越し苦労だった。
→ あの 朝の 予感は 虫の知らせだった。
○ 虫の知らせ=悪い 事が 起こりそうな 予感
× 取り越し苦労=まだ 起きて いない ことを しんぱいする

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがっても ○。

□ 下線を 引けた □ 場めん に 合う 慣用句に 直せた □ 直さなくて よい 文(問3・問8)は『なおさない』と 書けた